



## 校長の器量

福井県小学校長会会長

増田 勝三



教員生活もあと三ヶ月あまりを残す頃となり、遅きに失した感は否めないのですが、自分自身の校長経験を自責の念に駆られながら振り返ることが多くなってきました。

法隆寺の宮大工、故西岡常一氏が著書の中で「法隆寺大工の口伝」について語っています。口伝は法隆寺の大工に代々伝えているもので、伽藍を造る大工への教えや戒めとなっていますが、その中に私たち校長にとっても首肯するものがありましたので紹介させていただきます。

### 【堂塔の木組みは寸法で組まず木の癖で組め】

「建物を組み上げるのに寸法は欠かせないが、それ以上に木の癖を組むことが大切だ。左に捻れようとする木と、右に捻れようとする木を組み合わせて癖を封じ、建物全体のゆがみを防げ。癖があるからといって、その木を使わないのはもったいのほかだ」

学校の先生方も様々な癖（特長）をもっています。時と場合によって、その癖に頭を悩ますこともあることでしょう。しかし、その癖を生かしていくのが校長の務めではないでしょうか。

### 【百工あれば百念あり、これを一つに統ぶる。これ匠長の器量なり。百論一つに止まる、これ正なり】

「百人の工人がいればそれぞれ考えが違う。いろいろな考えをもつ百人の心を一つにまとめるのが棟梁の器量だ。みんなの心が一つになって、初めて正しい方向に進む」

学校経営も先生方の考えや意を汲むことが大切です。そして、その考えや思いを一つにまとめることが、正しい方

向へ進む第一歩です。校長一人の力では何もすることはできません。どのようにして先生方の気持ちを一つにまとめるか。それが校長の器量です。

### 【百論一つに止めるの器量なき者は慎み惧れて匠長の座を去れ】

「工人の意見を一つにまとめられなかったら、棟梁を辞めろ」学校経営が思い通りにいかない時、自分自身の不徳を恥じず、先生方スタッフが悪いと言って異動等で対処しようとしていませんか。先生方の意見をまとめられないのは校長に器量が無いからです。自らその職を辞する覚悟が必要です。学校経営に一番大切なものは、常日頃から先生方に思いやりをもって接し、心をまとめることです。

さて、12月21日に中央教育審議会から「答申」が出されました。新学習指導要領全面実施までのスケジュールを見てみますと、「学校の教育目標」の検討、教科横断的な学習内容の研究、外国語の指導と評価の在り方、また、それらに基づいての教育課程の編成、評価計画の作成など今後各学校で取り組むべきことが見えてきます。それぞれの学校の実態を踏まえて、やらなくてはならない事項をリストアップして全面実施までの工程表を作成することが必要です。今こそ、校長の器量が試されるときです。

最後となりましたが、本會報がますます充実・発展していくことを祈念するとともに、発行に対しましてご指導、ご協力いただきました関係各位並びにご尽力いただきました編集広報委員会の皆様へ心から感謝申し上げます、挨拶といたします。

## 時流潮流

## ふるさとを愛する心を育むために

## ～「郷土史」と「自分史」～

敦賀市立博物館長

外岡 慎一郎



先日、県内の博物館の会議で、その博物館が主催する「郷土史講座」という講座名称について意見を求められた。「郷土史」という概念、あるいは表記は古いのではないか、現在は「地域史」という考え方が定着している。そのなかであえて「郷土史」を採用するのは如何、との質疑のなかで見解を問われたのである。

筆者はその折、受け手、すなわちこの場合でいえば、博物館が講座の聴衆、参加者として想定している人びとの意識、感性に響くかが重要で、たとえば(東京23区内のような)都会で「郷土史」を冠することが少ないのも、受け手の意識、感性を考慮している結果ではないかという趣旨の意見を述べた。

福井県に都会がない、福井県民の意識、感性が遅れているという意味ではもちろんない。すでに地元民と呼べる人びとが片隅でひっそりと暮らす印象さえある東京の新宿区や港区、千代田区などで、博物館が「郷土史講座」と銘打った講座を開催したらどうだろう。薄れゆく地域の絆を取り戻す強いメッセージを添えることはできるかもしれない。しかし、昼と夜とですっきりかわってしまう風景や、年ごと、季節ごとに隣人の顔も変わっていく暮らしのなかに、「郷土」を感じるができるのか。そう考えると、都会に「郷土史講座」の看板は似合いそうもない。生活の場をともにする人びとが共有することができる「郷土」意識が維持されてはじめて「郷土史講座」のタイトルが似合う。

ところで「郷土史」とは、一言でいえば、地元民の、地元民による、地元民のための歴史研究、あるいはその成果である。大正～昭和戦前期に訪れた第一次自治体史ブームのなかで刊行された書籍、『福井県坂井郡誌』『敦賀郡誌』『若狭遠敷郡誌』など県内のもも含め、そのほとんどがその時期、同様のスタイルでつくられている。各郡の「教育会」が編纂者となるケースが大半であるから、各地域にあった元職・現職の学校教員集団が執筆・編纂の主力だったのである。国定教科書には描かれることが少ない、それぞれの地域の歴史遺産や「偉人」を紹介し、ふるさとへの愛着や誇りを醸成する役割をはたすことになる書籍が、学校教育の現場と近いところでつくられたことは重要である。

しかし、1980年代頃に再来した自治体史ブームのなかで編纂された書籍はやや様相を異にする。20世紀末に刊行が終了した『福井県史』のように、戦後の編纂になる自治体史の多くは、大学教授を始め専門の歴史研究者を調査執筆委員などとして外から集め、学校教員など地元研究者がこれに加わるというかたちで編纂されている。「郷土史」が

ときにいわゆるお国自慢に偏り、日本列島や東アジア地域の歴史などとの交渉をほとんど持たないままに叙述され、その地域の歴史的特性がかえって不鮮明になる傾向を有していると評価された結果と考えてよいだろう。会議の席上意識されていたのも、全くこれと同じ「郷土史」評価である。

戦後間もない1950年、地方史研究協議会という学会が組織された。「地方史」という語を冠したのは、国定教科書など学校教育の現場で採用されるテキストがいわゆる「権所在地を中心とした歴史叙述(「中央史」)に偏ることを批判し、これに対峙し得る「地方史」の確立を目指したからである。学会の設立趣意に、各地の地方史研究者および地方史研究団体の連絡機関としての役割を果たすとあるのも、政権所在地を含む各地域の「地方史」の総体が日本史になるという理解に基づいている。

このように「地方史」という概念が創出されると、「郷土史」という用語は、少なくとも歴史研究のプロの世界からは遠ざけられた。しかし、第二次自治体史ブームとなる1980年代に新たに「地域史」という概念が生まれ、歴史研究の主流を占めるようになると、「地方史」という用語も使われる機会が減少していく。「地方史」が「中央史」に対峙しこれを相対化する概念として創出されたことを前提にしつつも、「地域史」は中央と地方という対立軸も越えて、地域住民の生活領域や国境を越えた人びとの交流域をもたらえる概念である。

たとえば福井県であれば、白山信仰という共通項をもつ越前・加賀・美濃を含みこむ地域を設定する、環日本海交易圏という枠組みのなかで、博多や釜山、清津、松前、ウラジオストクなどと小浜や敦賀、三国の交流史を考えるとこのような設定が有効となる。地域社会の多元性を理解する、現在のところもっとも支持されている研究視座である。

会議の席に戻る。「郷土史講座」という名称を改めて「地域史講座」にするという意見がその場で披露されたわけではないが、筆者は、「郷土史講座」が古めかしければ「博物館講座」などとする選択もあるのでは、と提案して発言を終えた。当面、「郷土史」か「地域史」かという論争はその場になじむものではないと判断したこともあるが、博物館の公開講座の使命として、一定の聴衆、参加者を得ることが求められるから、受け手が分かりやすい表現にした方がよいという判断である。ただ、「地域史」を推せなかったことには、歴史研究者として一抹の悔恨もある。

実は敦賀では、随分前から「地域史」という概念を掲げた講座が設営されている。市民がつくる気比史学会という団体が主催する敦賀市民歴史講座がそれである。『敦賀市

史』の編纂が終了した1980年代後半には「地域史」という概念を理解し、講座を通じて普及に努めている。敬意を表したい。

敦賀というところ、令制国では越前に属するが、文化的には若狭・近江との関係が深い。言葉の違いひとつとっても、いわゆる嶺南・嶺北の断絶は深く、敦賀もまた嶺北の人びとからは「ぬるい」といわれることが多い。

とはいえ、12世紀まで敦賀郡は木の芽峠を越えて現在の南越前町、越前町の領域にまで含んでいた。敦賀はまた交通上の要地であり、地政学的にみても、つねに外来勢力の影響、ときに征服ともいえる事態を体験しながら歴史を歩んできている。領域も変動し、海外を含む隣接諸地域と多元的な関係を取り結びながら歩んできた歴史は、「地域史」の考え方で描かなければ、今、なぜ、こんな場所になっているのかがちっともわからない。

\*

「今、なぜ、自分はここにいるのか、しかもこんな姿で…、を考えるのが歴史という学問だ。」と、必ず最初の授業で話している。敦賀市立看護大学で担当している週1コマの半期授業「敦賀の歴史と文化」でのことである。学生たちはきょんとした眼でこちらを見つめている。「何のこと?」。歴史の授業だから年代順に敦賀で起こった出来事をつらつら話していくのだろうと考えていた学生には、サプライズなファースト・コンタクトであろう。

「その答えが、最後の授業までに出れば、この授業は成功だ。必ず出せるよう私も頑張るので、みんなも考えてほしい。」と付け加える。

そしてもうひとつ、ショッキングな話をする。「今の日本がもっと好景気で、売り手市場の就職戦線であれば、今、自分はここに居ないかもしれないと考えるひともあるかもしれないね。あるいは、もっと金持ちの家に生まれていれば、なんてね。」と。入学したての、ガイダンスを終えたばかりの1年生に向けた言葉としては少々手荒である。授業への関心を低下させ、担当教員への不信感を生じさせる危険もある。

しかし、相手は小学生ではない。今や将来の自分の姿を確定し、看護の道を選んだ学生たちである。看護大学を卒業して看護師にならないという選択は、原則ない。大学にとっても慮外。心に疼く未練を断ち、退路も封じて前に進まなければならない。そのためには、「今、なぜ、自分はここにいるのか、しかもこんな姿で…」という問いに対する答えを、いち早く見つけ、看護師を目指してもらわなければならない。今、自分がいる時間と場に、なんとか折り合いをつけ、先に進む勇気を得てほしいとおもいながら、手荒なことばを投げつける。

授業では、自分がどのような時間を生きてきたのか、親たちがどのような時間のなかで生き、自分を育ててきたのか、そのあたりから話を進めていく。敦賀にマクドナルドの店舗が開業したのは1987年。学生たちの親たちの多くが中学生・高校生だった時代である。敦賀の文化史に欠かせない項目である。自分たちの親の世代が、親たち(大学

生には祖父母)にせがんでマクドナルドに行くことが始まり、自分たちは物心つく頃には休日は家族でマクドナルドという風景のなかにいたという話をする。

学生たちには、教育制度や学習指導要領も時代環境だということも伝える。彼らは「ゆとり教育」から「脱ゆとり教育」の移行期に初等・中等教育をうけた狭間世代である。子どもの立場でその変化を認識することはできなかっただろうが、それを今知ることは、生きる時間を選べないのが人間なのだとすることを考える機会になる。

自分の生きた時間、大学生にはわずか20年ほどの時間に過ぎない。しかし、地球環境や世界情勢の影響を受けながら、あたえられた社会環境、家族環境のなかで育ち、今ここにいることを振り返る時間をもつことは重要である。自分の、自分による、自分のための歴史研究(認識)を前提に、これから自立した自分の未来をどうつくるかを考える時間だからである。

\*

自分の、自分による、自分のための歴史研究、これを「自分史」の構築と呼ぶなら、地元民の、地元民による、地元民のための歴史研究である「郷土史」と同じ地平に置くことができる。

そうなのである。自己認識から自己肯定、自己実現へという流れをつくるチャンスが「自分史」「郷土史」研究のなかにある。これが言いたかったのである。

それを「仏性」と呼ぶかどうかはさておき、人間はそれぞれに輝くものを擁している。そして、その輝くものをみずから発見し、磨き上げ、彩りを加えていくのが人生であれば、このうえなく幸福である。しかし、輝くものを発見し、磨き上げ、彩りを加えていくことは、おそらく一人ではできない。輝くものを探しあい、輝くものどうしを磨きあって、それぞれの彩りを加えていく作業がどうしても必要である。家族や友人、先生、その人に関わる人びとすべてが協働者となり、家庭、学校、社会がその場を提供するはずである。

ふるさとの輝くものを発見し、磨き上げ、彩りを加えていくのも、まずは地元民の役割である。しかし、地元民も気づかない、あるいは地元民が当たり前とおもっていることに、よそ者が輝きをみつけることもある。他者との交流なしに「自分史」を描けないし、他地域との交流を含めた「地域史」の視座なくして「郷土史」も描けないということである。

もう一度、会議の席に戻る。その博物館が実施している「郷土史講座」の表題をみると、そこには当然のことながら「地域史」の視座が反映されていた。「郷土史」の看板で敷居を低くし、講座の中身で視野を広げるのであれば理想的である。看板を掛け替える必要はなさそうである。その場での発言は控えつつ、家に戻ってから各地の博物館で「郷土史講座」という名称で開催している事例がいかほどあるか、ネットで確認した。やはり大都市圏に少なく、地方都市に多い。

ついでに、「郷土史」を冠する研究団体やこれが発刊す

る刊行物も探してみた。おもいのほか多い。福井県内にもある。戦前、あるいは戦後まもない設立の団体に交じって平成生まれの団体もある。いくつか活動内容のみをみると、比較的新しい団体に共通してみえてくるのは、地元愛と学校では教えてもらえなかった歴史への関心、そして絆づくりである。子どもたちが調査活動やイベント参加を通じて地域の歴史に触れているところもあるようだ。親や地域住民にふるさとを愛する心がないのに、子どもにだけふるさとを愛せというのは酷である。

争いに加わり、幸福度も日本一。誇るべき成果に満ちているにもかかわらず、ふるさとを愛する心は育まれているのか、福井に生まれてよかったと思う子どもたちがどれほどいるのか、心配になる。子どもたちが描く「自分史」も危うくなる。もちろん、学校だけで改善できる課題ではない。

本誌をお読みの多くの方々は、まもなく勤務先としての学校を去り、地域に戻られる。第二、第三のステージが地域とともにあり、慣れ親しんだ学校教育の場と連携した地域づくり、人づくりに指導的な役割を果たされることを願ってやみません。

ひとまず安心するとともに、児童・生徒の学力でトップ

表1: 世代の図(教材から、以下同じ)

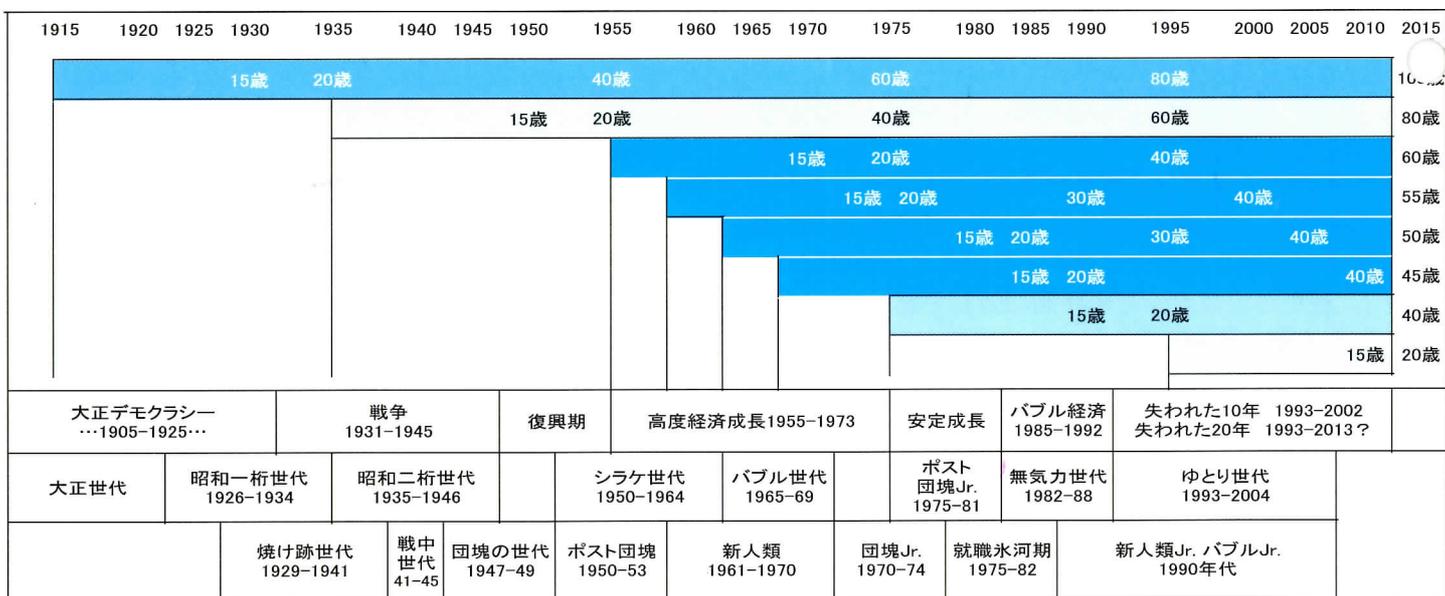
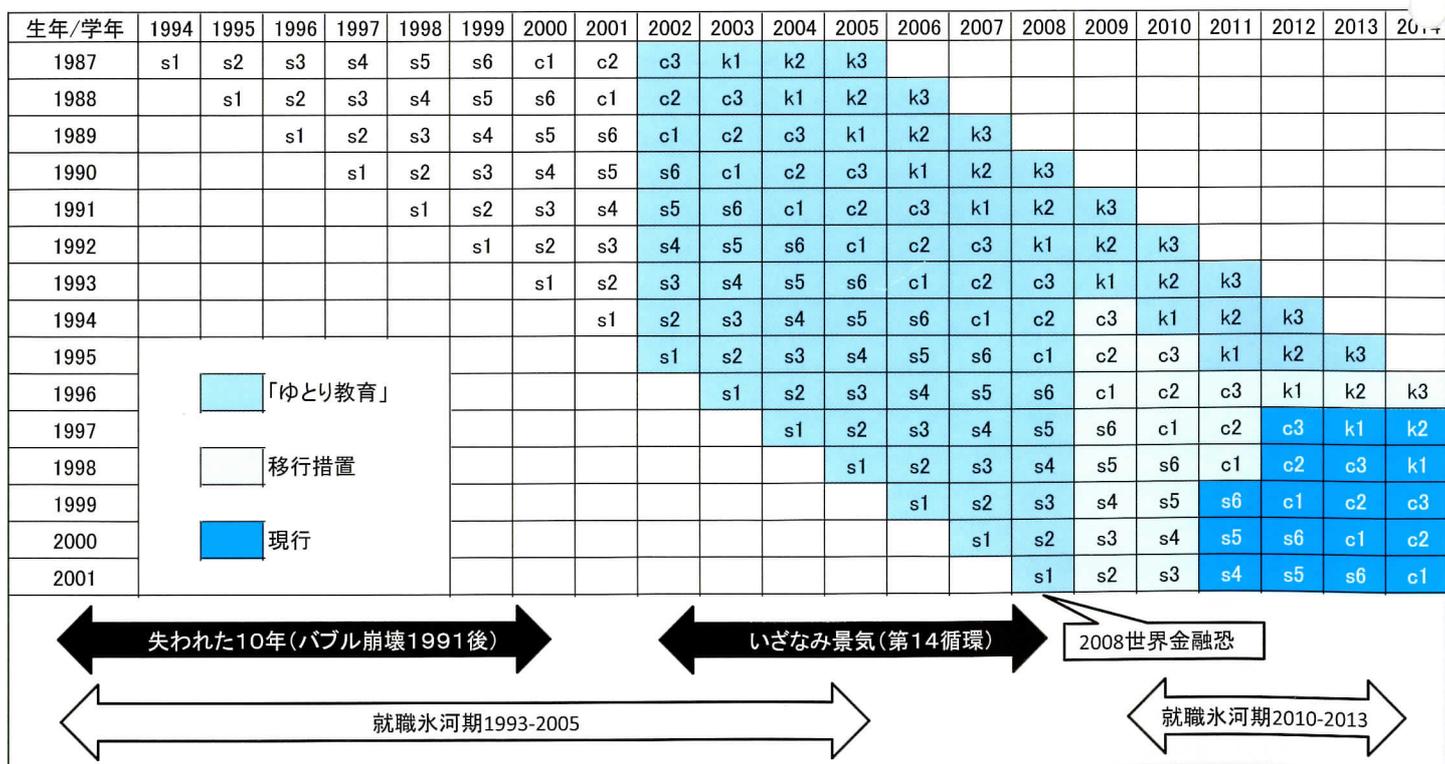


表2: ゆとり教育世代



## 退職校長の言葉

### 学校の外での経験

福井市社南小学校長  
小林 博一

これまでの教員生活を振り返ってみると、学校で子どもたちと向き合い奮闘してきた日々が、いろいろな子どもたちの表情とともに思い出されるのだが、学校という場所以外での経験が、私を結構豊かにしてくれたと、今になって思われる。

息子3人がお世話になった保育園の保護者会長をした時には、何日もかかって自作の衣装やかぶり物を作り、運動会のアトラクションでアンパンマンショーをやった。地区の体育振興会事務局をしていたときには、体育大会の広告集めや審判長、駅伝大会の準備・運営などいろんな裏方の仕事をした。

地域の青壮年団活動では、秋祭りのステージでドタバタ時代劇とマツケンサンバを演じ、大勢の観客から拍手喝采を受けた。息子が入っていたスポ少の監督を1年間引き受けた時には、土日ばかりが練習と遠征と大会だった。

仕事においても、学校を離れ行政にいた時の経験は、今思うと実に刺激的だった。単身赴任で行った能登青年の家での生活をはじめ、ダメ出しの赤ペンで真っ赤になって帰ってくる起案文書や、「こんなもんあかん。」と、読まれもせずに床に投げられた顛末書。ユー・アイふくいのステージで、何百人もの観客を前に得意の一輪車で縄跳びをしたことなど、今になっては良い思い出だ。これらの経験が、何となく今の自分の肥やしとなっていることは間違いない。

4月からの身の振り方は決まっていないが、趣味とボランティアで続けてきた水泳で、国体運営と障害者水泳の選手育成という、無収入の仕事だけは、しっかりと待っている。

あっ、町内会長も…。

### 出会った先輩・仲間へ感謝

福井市豊小学校長  
藤川 純一

7年前、もの作りの楽しさ、素晴らしさを子どもたちと共有したいと中学校教諭になりました。いろいろな学校、職場で様々な先輩・仲間に出会い、今日まで有意義な日々を過ごすことが出来ました。これまでの経験や出会いは、今の自分の原動力であり、生涯にわたっての宝でもあります。

若い頃には、一緒に時間を忘れて汗した同期。手のかかる生徒を連れて、野外活動に出かけ寝食を共にした事も忘れられません。そこには、やりたいことを黙って見守ってくれた先輩たちがいました。中堅として、新しい課題に向かって取り組むと、とにかくやってみようと一緒に挑戦する学年の同僚がいてくれました。小学校教頭になると、地域の学校として温かく見守ってくださる保護者・地域の皆さんと出会いました。学校を動かす大きな力となりました。また、校内は頼む、外のことは任せろと背中を語る校長先生がおられました。学校を離れた職場では、業種、校種の違う仲間に出会い、新しい文化を感じ、新たなネットワークも出来ました。

校長になって振り返り、何が出来るかがいてみたものの、残念ながら十分なリーダーシップを発揮できず、最後まで協働する教職員に助けられました。これまで出会った、全ての先輩・仲間・子どもたちに感謝しかありません。ありがとうございました。

今後も子どもたちと関わっていたいと思い、おもちゃドクターに登録し活動も始めています。今度は、まちの先生として、元気に児童・先生方のお手伝いが出来ればと思います。皆様の益々のご活躍をお祈りいたします。

### 子どもたちが教えてくれた 教師の仕事のすばらしさ

大野市有終東小学校長  
木戸屋 八代実

子どもは 才能あふれ 常に成長し「希望」をもたらす  
子どもは 寛容で 友好的で「愛」をもたらす  
子どもは 好奇心強く 知りがり「進歩」をもたらす  
子どもは 心を開放し 無垢で「純朴さ」をもたらす  
愛情をかけた分だけ 子どもはたくましくなり  
子どもの成長に合わせながら 時には 手をかけ  
時には 声をかけ 時には 目をかけ  
そうすることで すべての子どもが 大きく 高く輝く  
これは わたしが 子どもから教えてもらったこと

お恥ずかしい話ですが、20才代初めの頃、私は、あまり教員になりたいとは思っていませんでした。でも、その頃に赴任した学校が、灰谷健次郎の本に出てくるような小さな学校でした。「こんな学校もあるのか」と大変驚きました。その学校で、このような子どもたちの素晴らしさを感じることができ、教員の楽しさを知ることができました。

途中で教員を辞めることもなく、どういうわけか校長にまでなっていて、間もなく定年退職を向かえます。38年前には、夢にも思わなかったことです。ここまで、子どもたちのためにと懸命に働き、最後まで続けることができたのも、教師のはたらきかけで子どもたちが確実に伸びる姿を見せてくれ、その楽しみを毎日味わうことができたからです。子どもたちには、心から感謝をしています。退職後も、子どもたちに恩返しをするつもりで、できるだけ長く、私ができることを子どもたちにさせてもらいたいな、と思っています。

### 疾風怒濤の時代のリーダー像

坂井市立春江小学校長  
前 義隆

教育を取り巻く環境の変化は加速度的である。かつての教育長さんは、「前例は善例に非ず」とよく口にしておられたが、今まさにそういう時代。変化の緩やかな時代とは違い、前例を踏襲しながらゆっくりと変えていくというような悠長なことはしてられない。

いじめ・不登校対策は言うまでもなく、英語、道徳の教科化をはじめ、キャリア教育、プログラミング教育、金融教育、主権者教育等いろいろなものに「教育」がくつつき、教育に求められるものは増大の一途。その上学校生活に課題を抱える子どもも年々増えている。

日本教育経営学会は、8年も前、つまり平成21年に、求められる校長像を「教育活動の組織化のリーダー」と捉え、「あらゆる児童生徒のための教育活動の質的改善をめざして、児童生徒、教職員、ならびに保護者・地域の実態を踏まえながら各学校が今進むべき進路を明確にし、当該学校が擁する様々な資源・条件等を有効に活用することによって学校内外の組織化をリードすることである」としている。

その意味で校長は、4月に赴任すると同時にその学校の課題を見取り、対策を盛り込んだスクールプランを作成するという難題に取り組みなければならない。取り敢えず前任者のプランに乗って、2年目から独自色を、というのではなく、この変化の激しい中で変化の最先端に立ち、昨日と同じ自分を捨て、常にリーダーシップを発揮しなければならない時代となっています。自省の念から。

## 明るく 笑顔で! がんばりましょう!!

鯖江市河和田小学校長  
屋木 洋子

高校時代の担任から「あなたには教員が一番向いている。教育学部へ進学しなさい。」と当たり前のように何度も言われ、抵抗して違う学部に進学しました。しかし、学生時代の恩師やサークル活動等を通して、自分には研究ではなく、子どもたちを笑顔にする仕事が合っていると確信し、進路を決めました。

それから37年間・・・自分を変えて、支えてくださったのは、出会った子どもたちや保護者・支えてくださった先輩・見守ってくださったいろいろな人たち・そして家族です。感謝の気持ちでいっぱいです。

特に、「自分を見つめ直し、さらに成長するために、次のステップに進みなさい。」と進めてくださった、校長や教育長との出会いがあったからこそ、今無事に教員生活を終えることができたのだと深く感謝しております。

担任を離れて、福井大学に内地留学したり、教育研究所で研修したりした日々は、得がたいものでした。また、TT・教務・教頭・校長として過ごしてきた最後の10年間は、毎日が新鮮で、苦しみと楽しみが入り交じった日々でした。「率先垂範」「日進月歩」を座右の銘にして、「明るく・笑顔で」をモットーに乗り越えてこれました。

これからセカンドライフのスタートです。今までお世話になってきた皆様への恩返しをするとともに、やりたかったことや、やり残してきたことなどにチャレンジしていきたいと考えています。今まで本当にありがとうございました。

明るく 笑顔で! 共にがんばりましょう!!

## 感謝! 感謝!

越前市武生西小学校長  
関 孝夫

38年間の教員生活を振り返ってみて、無事にここまでたどり着けたことに、ただ“感謝”するのみである。本当に、多くの方に支え続けられてきた、という思いでいっぱいである。いざ自分がこの立場に立ってみると、言い古された言葉ではあるが、“感謝”という言葉の意味が身にしみてよく分かる。

前半の26年間は、小学校一筋で勤めてきた。多くの子どもたちや保護者に出会い、また地域の方の支えもあって、学校と地域にどっぷりつかりながらの日々だった。百周年記念事業、地域の大きな祭り、研究大会、国内外での研修、56豪雪、福井豪雨などの災害…。楽しいことばかりではなく、時には苦しい時もあったが、同僚や保護者、地域の方の力を借りながら、その都度乗り越えられてきた。

後半の12年間は、一転して、管理職として小学校、中学校、高等学校、幼稚園(兼務)の4つの校種に勤務できたことがよい思い出となっている。それぞれの学校の業務や校風に慣れるのに一苦労したが、次第に慣れてくると、それぞれの“文化”や“役割”の違いを直接肌で感じる事ができ、日々新鮮な気持ちで勤めることができた。

こんなにも多くの仕事をさせていただいた38年間だった。ここまで支えてくださった多くの方々に、心の底から感謝申し上げたい。

## 振り返れば・・・

美浜町立美浜東小学校長  
清水 美由紀

新採用～。右も左も分からず、ただただ我武者羅に突き進んだ日々。思えば未熟な指導の数々で、申し訳ない気持ちでいっぱいです。そんな私に先輩教員はいつも優しく、小さなことを大きく褒めて、教員としての私を育てて下さいました。

20代後半～。妻となり、母となり、仕事と家庭の両立に悩み、もがきながらも、学級経営に、教科指導に、そして部活動にと、全力で邁進した日々。家族の理解と協力なしには乗り越えられない時期でした。

30代後半～。中堅という立場になり、戸惑いながらも与えられた職務の全うに奮闘した日々。視野を広く持つことや様々な立場の方々との繋がりの大切さを学んだ時期でした。先輩教員はもとより、若手教員に助けてもらったことも多かった・・・。

40代後半～。管理職となり、自分なりの管理職像を懸命に模索した日々。地域の方々の温かさが本当にありがたかった。大抵、原に漕ぎ出す船のごとく、教職員一人一人の大いなる力で、真直ぐに進んでいくことの気持ち良さを感じることができるようになったのは、つい最近のことです。

長くもあり、短くもあった、38年間。振り返れば、いつも、どんな時も、決して一人ではなく、多くの仲間や家族に支えられ、励まされ、応援していただいて、今日まで歩んでくることができました。

全ての方々に、改めて、心から感謝申し上げます。

## 感謝

若狭町立明倫小学校長  
藤本 利美

月並みな言葉ですが、多くの方のお世話になり今日の日を迎えることができました。本当にありがとうございました。

思えば新採用の頃、授業も学級経営も未熟な私を温かい目で導いてくださった当時の校長先生はじめ先輩諸氏。教材研究や時には職場の人間関係のことまで相談に乗ってくれた同僚たち。「先生の頼みなら何でも聞き遠慮しないで」と協力していただいた地域の人たち。そして何より、こんな私を慕ってくれた子どもたち。今まで何とか勤めることができたのは、本当にまわりの人たちのおかげです。

校長としての3年間は、それらの人たちへの最後の恩返しのもりで働いてきました。授業や学級経営の参考になればと助言らしきこともしましたが、果たしてどれだけのことが役に立ったでしょう。学習内容も子どもたちを取り巻く環境もずいぶん変化しました。また、職場の人間関係も難しさを増してきたように感じ、少しでも居心地の良い職場にしたいと思い続けてきました。どれだけのことができたでしょう。

教育の究極の目的は、子どもたちを幸せにすること、幸せな人生を送るための力をつけることだと考えてきましたが、いったいどれだけのことができたでしょう。

これからは学校を外から見ることになります。「先生の頼みなら何でも聞き遠慮しないで」と言える地域の人をめぐります。



# 今朝の校長講話

## 1分から2分程度の話

福井市東安居小学校長  
坂本 卓也

子どもたちに話をする際、心がけていることは、「なるべく短く」ということである。着任して間もない頃は、あまりにも私の話が短いので子どもたちが驚くことがあった。全校朝礼においては、1分で話をするのがなかなか難しいので2分以内を目標にしている。

### 【宿泊学習にて】

楽しみにしていた宿泊学習ですね。校長先生も随分昔、小学校5年生の時に宿泊学習に行きました。でも、あまり思い出がありません。なぜかという、ふだんはほとんど喧嘩をしないのに、よりによって宿泊学習の1日目に他の子と喧嘩をしてしまったからです。しかも、意地を張ってすぐに仲直りをしませんでした。それで、良い思い出がありません。

せっかくの宿泊学習なのに、なぜ喧嘩をしてしまったのだろう、なぜすぐに仲直りできなかったのだろうと後悔しました。

校長先生の子どもの頃の苦い思い出です。皆さんは、そんなことはないでしょう。5年生の皆さん、仲良くしながら最後まで頑張ってください。

### 【全校朝礼にて】

今日は、少し難しい話をします。でも、賢い皆さんならきっとわかってくれると思います。

言葉というのは、少し入れ替えただけで意味が違ってきます。たとえば、「2学期も頑張ります。」というのと、「2学期は頑張ります。」というのでは意味が違います。

「2学期も頑張ります。」というのは、「1学期も頑張りました。それで、2学期も頑張ります。」ということになります。つまり、1学期も頑張っているわけです。

それに対して、「2学期は頑張ります。」というのは、「1学期は頑張ったとまでは言えない。そこで、2学期は頑張ります。」ということになります。皆さんは、どちらが自分に当てはまるでしょうか。

他にも、いろいろあります。「2学期こそ頑張ります。」これは、「1学期は頑張ったとまでは言えない。そこで、2学期こそ頑張るんだ。」という強い意欲を感じます。

「2学期だけ頑張ります。」頑張るのは2学期だけで良いですか。

「2学期に向け頑張ります。」これは、「2学期になる前に、今から頑張る。」ということですから素晴らしいですね。

さあ、今日は、1学期の締めくくりです。

2学期のよいスタートが切れるように、勉強も運動も読書も頑張らしましょう。

## 「おもいやりって何だろう」

永平寺町志比小学校長  
酒井 数子

『おもいやり』って何だろう。(質問すると、「優しくすること」「親切」「助けること」などと応えてくれました。)

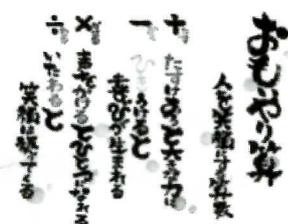
『おもいやり』は【思い】+【やる】と書きます。【相手を思いやる】ことです。思いやると相手が嬉しくなり笑顔がこぼれます。



集会の様子

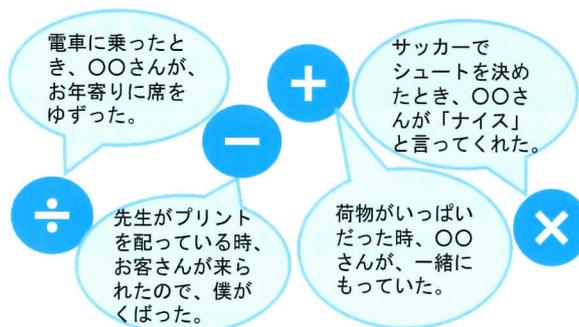
では、人を笑顔にする算数があるのを知っていますか？算数には、たし算・ひき算・かけ算・わり算があります。同じように、四つの計算が人を笑顔にする算数にもあります。「おもいやり算」です。昨年、CMで流れていました。(写真を見せながら、何算か一緒に考えました。)

- ①重い荷物を持っている友達を助けると大きな力になります。(たし算)
- ②階段の下でベビーカーを運ぼうとしている赤ちゃん連れのお母さんの代わりに運ぶことを引き受けると喜んでもらえます。(ひき算)
- ③泣いている友達に「大丈夫？」と声をかけると気持ちが分かり合えます。(かけ算)
- ④雨の中ぬれている友達にそっと傘を差しのべると笑顔が返ってきます。(わり算)



おもいやり算 (AC ジャパン)

次のことは、何算でしょう。(下記) (例を挙げて、考えさせました。)



あなたは、何算が得意ですか？

提示したパワーポイント

12月4日～10日までは「人権週間」です。世界中の人が自由に幸せに暮らせるために考えようと設けられています。皆さんも「おもいやり算」に取り組み、お互いを認め合い、笑顔いっぱいの志比小学校にしましょう。

11月21日の全校集会での話です。この後、5年生が全校に「おもいやり算」に取り組みようと呼びかけ、校内は笑顔でいっぱいになりました。

## 3年連続 日本人がノーベル賞を受賞

大野市上庄小学校長  
亀谷 良治

10月に入って、うれしいニュースがありました。それは、今年のノーベル医学生理学賞に、東京工業大学の岡田良典先生が決まったということです。日本人の受賞は3年連続です。同じ日本人として、大変名誉であり、皆さんと共に喜びたいと思います。

さて、大隅先生のどんな研究がノーベル賞に繋がったのでしょうか。それは、「細胞の中で起きるオートファジーという働きを解明」したことです。解明とは、これまで謎だったことがはっきりとわかるようになること、つまり謎を解いたということです。

では、大隅先生はどんな謎を解いたのでしょうか。

私たちの体は、顕微鏡で見ないと分からないほどの小さな細胞でできています。人間の体は、約60兆個の細胞でできているそうです。私たちが生きているのは、これら一つ一つの細胞が生きているからです。そして、その細胞の中で起こるオートファジーとは、細胞中のゴミをリサイクルするという仕組みのことです。(…図を示しながら…)細胞の中に古くなったタンパク質などのゴミができると、①細胞の中に膜ができます。②膜がいらなくなったタンパク質などのゴミを包みこみます。③そして、バラバラに分解します。④分解されたタンパク質は、新しいタンパク質を作る材料になり、再利用されます。また、エネルギー源にもなります。オートファジーは、細胞が生きていく上で欠かせない仕組みなのです。

この仕組みは、皆さんの家庭でも同じです。毎日の生活をしているとどうしてもごみが出てきます。これらのごみの中には、リサイクルして資源になるものもあります。例えば、新聞紙や雑誌は読み物として活用した後はごみになりますが、資源として再利用すればトイレットペーパーに変わります。また、お茶やコーラを飲んだ後のペットボトルも、再利用すれば作業服になります。

こういったごみのリサイクルの仕組みが、私たちの体の小さな細胞の中でも行われているということです。もし、オートファジーの働きに異常があると、細胞にゴミがたまり、病気になるそうです。皆さんの家でも、ごみがたまり、そのままの状態になるとごみ屋敷になってしまいます。大隅先生が研究したことがきっかけで、多く研究者がこの研究に取り組み、病気の治療や薬の開発につながっているということです。

ここまで、オートファジーについて説明しました。これらの内容は、「福井新聞こどもタイムズ 10月9日版」に掲載されています。上庄小学校では、新聞を活用する学習、NIE活動に取り組んでいます。新聞を読んで感想を伝えるKHニュース(お昼のテレビ生放送)やファミリーフォーカス、新聞スピーチコンテストなどに取り組んでいます。いろんな情報を取り入れるのに、新聞はとても便利です。職員室の廊下には、福井新聞・日刊県民福井・毎日小学生新聞の3つの新聞が置かれています。これからも新聞を読んで大いに活用しましょう。

## 新しい発見!! 虫歯はどうして出来るの?

坂井市立兵庫小学校長  
畑山 達哉

先週の、保健委員会の健康スマイル集会での発表ご苦労様でした。みんなも覚えていると思いますが、歯の発表でした。劇をしたりクイズをしたり、とてもわかりやすく素晴らしかったです。校長先生も初めて知ったことがたくさんありました。

どうして保健委員会が歯について発表してくれたか覚えてますか?(半手が挙手)はい、6年の〇〇さん、「はい、兵庫小学校は、虫歯のある児童が全国平均よりはるかに多かったからです。」正解。そうでしたね。全国だと10人に5人が虫歯なのに対して兵庫小は、10人に7人が虫歯だからですね。虫歯の原因は、しこうというミュータンス菌でしたね。〇〇さんがミュータンス菌になり、歯にドリルで穴を開けていたね。そのミュータンス菌は普段は寝ていていていましたね。それではまた問題。どうすると起きてどんな仕事をするのか覚えている人?(3分の1が挙手)はい4年の〇〇さん、「はい、砂糖が口の中に入ると起きて、歯に穴を開けます。そして20分穴を掘ったらまた寝ます」正解。よく覚えていましたね。だから食べた後の歯磨きは大切なんですね。

さらに保健委員会では、劇で3つのあめを食べるときに1度に3つ食べた〇〇君と3回に分けて食べた△△さんどちらが虫歯になりやすかったかな?〇〇君だと思う人?(少数)△△さんだと思う人?(多数)はいほとんどの人が正解です。理由は量ではなくて、砂糖の入った食べ物を食べる回数が多いほど虫歯になりやすいでしたね。

それから本校では、虫歯がない子は、140名中、12名いました。保健委員の人たちは、虫歯がある子とない子でアンケートを採ってくれましたね。虫歯がない子は、「歯磨きは朝・昼・夜と3回する」「おやつはほとんど食べない」「飲み物は、お茶か牛乳を飲んでいることが多い」などでしたね。

みなさん、虫歯のない子のまねをして歯を大切にしていましょうね。保健委員会の皆さん、ありがとう。



保健委員会の発表



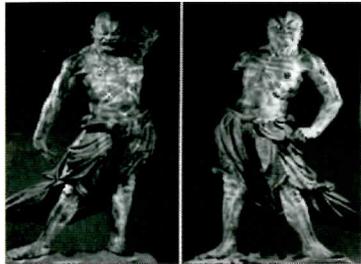
ミュータンス菌

## 「身を守る」こと・「自分を伸ばす」こと

鯖江市惜陰小学校長  
林 哲治

今日は、「身を守る」ということと「自分を伸ばす」ことについてのお話をします。

1つ目は「身を守る」というお話です。この写真は仁王像です。寺を守る守護神です。仁王像は身の守り方を教えてくれます。仁王像には、「近くを見る」像と「遠くを見る」像があります。



近くを見ているのは、自身に近づく敵や危険を見つけるためです。遠くを見ているのは、遠い将来に危険が近づかないか見守るためです。

皆さんにとって日々の最大の危険は、交通事故です。「まさか」と「もしかしたら」という言葉があります。事故に遭った人は「一旦停止で止まらず飛び出してしまったときも、まさか車がくるとは思わなかった。」と言います。日野川に入ることは禁止ですが、事故に遭った人は「まさか人が沈んでしまうくらいの深さだとは思わなかった。」と言います。

「もしかしたら」と考えを変えてください。「横断歩道を渡ろうとしたとき、もしかしたら運転手がスマホを見つけていたら、あぶないぞ。よく見て渡ろう。」と考えるのです。「まさか」という言葉を「もしかしたら」にすれば、みんな助かります。「まさか」と考えずに、なんと考えたらいいのかな。「もしかしたら」です。

2つ目は、「自分を伸ばす」というお話です。先の「遠くを見る」仁王像は、皆さんの将来を見守ってくれている像といえます。皆さんの幸せな将来のためには、自分を伸ばすことが近道です。

自分を伸ばす方法として、自分のよいところを見つける方法があります。自分のよいところを見つけると、毎日が楽しくなります。「挨拶がよい」「よく発表する」「掃除が好きだ」などと、自分のよいところを上げてください。毎日が楽しくなります。自分のよいところをたくさん探してください。自分のよいところを探せる人は、友達のよいところも探せる人です。毎日、皆さんが出会った人のよいところを探してください。「友達はやさしい」「約束を守る子だ」「よく話を聴いてくれる」などです。先生は、出会った人のよいところを3つ以上言えるようにしています。よいところが見つかったら、その人となかよしになります。友達のよいところをどんどん探しましょう。

逆に、人を非難したり、悪口ばかり言ったりしていると、人が嫌いになり、友だちも離れていきます。最後には、「どうせ僕は」と言うようになります。「どうせ」という言葉を聞くと、相手も嫌な気持ちになります。

「どうせ」という言葉は、自分も友達も見下した言葉です。人にいじわるしたくなる言葉にもなります。困りますね。さあ、自分と友だちのよいところをたくさん探してみましょう。今日は「身を守る」、そして「自分を伸ばす」というお話をしました。

## 「優しい心と思いやり」

越前市大虫小学校長  
遠藤 重子

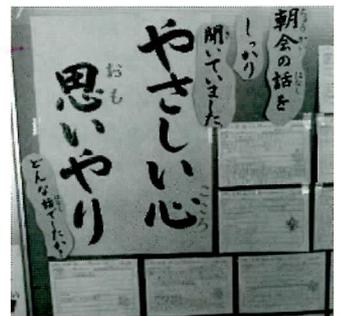
おはようございます。今日は、「優しい心と思いやり」の話をします。佐賀県鹿島市というところに住む小学校5年生の熊本さんという女の子の話です。

熊本さんは9月10日午後3時ごろ、自分の家の近くの道路で、近所では見かけない女の子を見つけました。声を掛けたところ女の子は4歳で、迷子だと分かりました。

熊本さんの家にはちょうど家族が出かけていて誰もいませんでした。熊本さんは迷子の女の子のことを誰かに相談しようと思うのですが、近くに誰もいません。そこで、熊本さんは女の子をおぶって、約1キロ離れた駐在所に行くことにしました。1キロというと、大体この大虫小学校から旧国道にあるマクドナルドぐらいまでです。熊本さんはずっと女の子をおんぶして歩きました。安心したのか女の子は、熊本さんの背中ですやすやすや眠ってしまったそうです。

ところが、せっかく駐在所まで来たのに警察官はパトロール中でいませんでした。熊本さんはどうしたと思いますか。(間)。そこで熊本さんは、近くの事務所の電話を借りて、駐在所よりたくさん警察官がいる警察署に連絡しました。どうやら、女の子は遠くから親戚の家に遊びに来ていて、お兄ちゃんと遊んでいた時にはぐれたようでした。熊本さんのおかげで、4歳の女の子は無事に家族のもとに帰ることができました。よかったですね。この小学校5年生の女の子は「少しでも女の子が安心できるように」と思い、行動を起こしたそうです。今日の校長先生のお話の題のように、優しい心と思いやりは満点ですね。

さて、今度は皆さんです。何も熊本さんのように特別なことをしなくても優しい心や思いやりのある行動はとれます。自分のことを振り返ってみましょう。学校生活で周りの人に対して優しい行いができていますか。友達や周りの人に乱暴な言葉を言ったり、思い通りにならないとすぐに腹をたてたりしていませんか。きっとこの熊本さんはその時だけ何かいいことをするのではなく、日頃から、小さい子や友達に対して優しい心で接していたのだと思います。だから、4歳の女の子は熊本さんの背中で安心してすやすや眠ってしまったのでしょいうね。



『大虫の子どものちかい』の中に「人には親切にし」とあります。唱えるだけではちかいのような子になれません。特に学校の中で考えてみると、自分より小さい学年の子に対して、日頃から優しく接していれば自然にどんなときでも他の人に優しくしたり思いやりのある行動がとれたりできるものです。1年生は学校では一番小さいから何もしなくていいと思っているのは困りますよ。自分の学級の中ではもちろん、自分より年の小さい幼稚園や保育園の子に対していつも優しい気持ちで接してあげてほしいです。優しい心と思いやりの持てる子になりましょう。

## 自然の素晴らしさ

敦賀市立赤崎小学校長  
山下 典子

「秋」といえば、読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋・・・などありますが、「みのりの秋」といって穀物や果物の収穫が多くなる時期でもあります。いろいろな実もなります。

さて、これは何でしょう(スライドでクヌギの実を見せる)。そう、ドングリです。正しくはクヌギの実です。今、1・2年生の教室には、秋みつけで集めた落ち葉やススキ、ドングリで作ったおしゃれなドレスが掲示してありますね。

ところで、ドングリという名前の木はありません。クヌギやシイ、カシなどの木をまとめてドングリというのです。バナナやみかんをまとめて果物と呼ぶのと同じです。どうしてドングリというのか国語辞典で調べてみると、漢字で



「団栗」と書いてありました。栗はわかるのですが、「団」がよくわからないので、今度は漢和辞典で調べてみましたら「かたまり、集まり」と「まるい」という二つの意味がありました。「だんぐり」がいつのまにか「ドングリ」と言うようになったのだと思います。(参考；月刊プリンシパル2016)

＜ねらい1＞辞書や辞典に日常的に親しむことの大切さを知らせる。

この写真を見てください。先生のお家の庭の柿の木とドングリ(クヌギ)です。柿の種を植木鉢に軽く埋めておいたら、何とこんな大きな木になりました。こちらのドングリの木は何を埋めたのかというと、このドングリの実です。ドングリの実から芽が出るんですよ。育てたことある人がいないようなので、ドングリの芽が出る様子をスライドで見てください。拾ったドングリは、生きていたんですね。自然の力ってすごいですね。先生は今、中庭で拾ったドングリの実を校長室で育てています。まもなく芽が出そうなので、芽が出たらみなさんにも見せますね。楽しみにしてください。(子葉が出たドングリを、冬休み前に子どもたちに披露しました。)

＜ねらい2＞自然の変化に気づかせ自然の素晴らしさを実感させる。

11月の全校集会での話。1年を通して「自然に気づく子」になってほしいという私の願から、時折自然をテーマに話をします。

「今月のお話」は校長室前廊下に掲示しています。

## 「好きなことだけやりなさい。」

若狭町立野木小学校長  
檜鼻 幹雄

この人を知っている人はいますか？ この人は「水木しげるさん」という漫画家で、「ゲゲゲの鬼太郎」の作者です。

数年前に、水木しげるさんをモデルにした物語が、NHKの朝の連続ドラマで放映されていましたので、見た覚えのある人がいるかもしれません。

今日の話は、水木しげるさんのお話です。水木しげるさんは、漫画以外にも、たくさん本を書いています。それらの本の中に、「幸せになるための七カ条」という本があります。読んでみると、幸せになるために、「なまけものになりなさい。」とか「好きなことだけやりなさい。」とか、へえーと思えることが書かれています。

ところで、みなさんの好きなことは何ですか？ この本を、初めて読んだ時、「好きなことだけやればいいのか。」と単純に考えていたのですが、ある日、水木しげるさんのインタビュー番組を見た時、このことについて、こんなことを語っておられました。

「好きなことと楽をすることとは違うのですよ。嫌なことやつらいことがあっても、やらずにおれないのが本当に好きなことなのです。だから、悩んだり苦しい目にあってみたりしないと本当に好きなことが何なのか自分でもわからないのです。」・・・と。



皆さん、どうですか？ 水木しげるさんの言う本当に好きなことが今、ありますか？

野球が好きだと思っている人は野球を、サッカーが好きだと思っている人はサッカーを、絵を描くことが好きだと思っている人は絵を描くことを一生懸命やって見てください。

そして、そのことが本当に自分の好きなことなのか見つけてほしいと思います。

いろんなことを一生懸命にやってみて大人になるまでに、是非、みんなが本当に好きなことを見つけてくれるといいと思います。



## 人事行財政対策委員会

本委員会では、主に2つの活動を行った。1つは「県教育長と語る会」に向けて、校長会としての話題提供をまとめることで、各地区で話題になった要望などを委員会でまとめた。もう1つは、「全連小三地区対策担当者連絡協議会」で話し合うために、本県の現状と課題をまとめることであった。

### 1 県教育長と語る会

8月12日、県小中学校長会11名、県教育長ほか県教委9名出席。校長会側が現状と課題を述べた後に質疑応答し、その中で要望も伝えていくことになった。

(1) 生き生きとした児童生徒を育成するために教科担任制の拡充、外国語活動の教科化、英語指導の状況、高校入試制度改革、習熟度別指導について、各校での具体的な取組状況を説明した後、教育長をはじめ各担当者と意見交換を行った。

(2) 次の時代を担う元気な教職員を育成するために学校運営支援員、旅費、SSWとSCの活用、校内研修・OJTについて具体的な取組状況の説明の後、意見交換を行った。

### 2 全連小東海北陸・近畿地区対策連絡協議会

10月6日、大阪で開催、13府県が参加。

(1) 教職員の配置基準及び状況と課題について標準法による学級規模の改善が進まない状況の中、各府県・政令指定都市独自の人的配置施策について情報交換が行われた。ほとんどの府県・市で独自プランによって学級定数を減らしているが、未だ国の基準のままのところもある。

また、多忙化や支援が必要な児童の増加に伴い、ICT教育推進教員、SSWやSC、特別支援教育支援員などの専門職員の必要性を唱える府県・市が多い。

(2) 若手教員に求められる資質・能力と課題若手教員に不足している資質・能力については、コミュニケーション力、授業力、児童理解力・生徒指導力などが、いずれの府県でも共通して挙げられている。これらの能力を育成する研修が必要となるが、指導を適切に行える退職教員などの人材の配置が重要である。

また、採用時にある程度の実践力を確保するには現場での経験が必要であり、教育実習や新規用者への事前研修の時期・期間・内容について改善の必要があるとの共通認識を得た。

(文責：福井市足羽小学校長 大久保 雪夫)

## 調査研究委員会

本委員会では、『新しい時代に即応した魅力ある学校づくりと校長の役割Ⅱ』をテーマに、今日的な学校教育の課題、学校経営上の諸問題や新しい時代に即応した学校の取組について、調査研究を行った。

### 1 調査項目の設定

- ①新たな教育改革・教育施策
- ②全国学力・学習状況調査の活用
- ③教員の資質・能力の向上
- ④教育課程の編成
- ⑤教育内容の改善事項や時数の確保
- ⑥生徒指導
- ⑦校内研修の充実
- ⑧校長の職能と研修
- ⑨特別支援教育の推進
- ⑩教科担任制
- ⑪新しい時代に即応した学校づくり

### 2 調査の結果

各学校では、校長がリーダーシップを発揮しながら、学校現場が抱える課題解決に必要な組織運営の工夫や実効性の高い取組を大事にしていることがうかがわれた。授業研究や指導方法の改善を進めていく中で、各学校の校長が指導力を発揮しようとしている。つまり、学力向上や授業改善は全国のどの学校でも大きな課題であり、校長が強い意識を持って臨もうとしている。

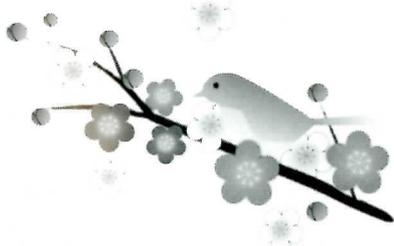
また、教員に対し、指導法や評価法を含めた授業の改善を行うことに意識改革を図ることや、教育目標達成のために学校経営への意識を高めることが、課題だと考えている校長が過半数を超えている。この二つのことは、学校が抱えている教員の指導力の向上と、学校組織の強化という今日的課題である。

特に、新たな教育改革・教育施策に対する関心が高く、英語や道徳の教科化に対する「教員の指導力の向上」が、喫緊の課題であることが分かった。一方で、児童を多面的に捉えることができたり、工夫された授業が行われたりするなど教科担任制のメリットは多いが、今後英語や道徳の教科化を踏まえると、専門性という立場から教員配置の課題が残る。

新しい時代に即応した学校づくりのヒントは、学校が単独で教育活動を行うことではない。保護者や地域の力を最大限借りながら学校経営に生かしたり、保幼小で連携したり、小学校同士で連携したり、中学校区内の小中学校で連携したり、専門機関や教職大学院と連携したりして、自分の学校以外の知恵や支援を得ながら、学校を活性化することである。

終わりに、アンケートの実施や集約などご協力いただいた県下小学校長をはじめ、調査研究委員の皆様にご心から感謝を申し上げます。

(文責：福井市一乗小学校長 和田 敏二)



## 教育研究委員会

### 1 活動の報告

第68回福井県小学校長教育研究奥越大会に向け、小学校教育の在り方と校長の役割・指導性等について実践的な研究を推進した。大会では、全連小の研究主題「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」のもと、副主題として「豊かな心と確かな学力を身につけ、未来社会を」を掲げ、福井型8分科会において活発に研究討議を行った。

また、本大会の提案発表の中の3つの実践内容を、東海・北陸岐阜大会において発表し、東陸各県の校長による研究協議に生かすことができた。

### 2 主な活動内容

#### (1) 第1回教育研究委員会

期日：4月12日(火) 会場：県教育センター

- 年間活動方針、年間事業計画について
- 28年度各研究大会の概要について

#### (2) 第2回教育研究委員会

期日：6月7日(火) 会場：県教育センター

- 第68回県小学校長教育研究奥越大会について
- 全連小高知大会および東陸岐阜大会について

#### (3) 第68回福井県小学校長教育研究奥越大会

期日：8月22日(月) 会場：学びの里「めいりん」  
有終西小学校

- 教育研究委員会より、駐車場係2名、受付係5名が運営補助に当たる。
- 福井型8分科会に分かれ提案発表・研究協議を実施〈各分科会の提案者〉

①学校経営	鯖・豊小	窪田 政一	校長
②教育課程Ⅰ	啓蒙小	川崎 清美	校長
③教育課程Ⅱ	木部小	坪田 義美	校長
④現職教育	越廼小	松本 行生	校長
⑤危機管理	お・和田小	岩崎かず代	校長
⑥社会形成能力	白山小	川道 初美	校長
⑦自立と共生	小山小	北川 博之	校長
⑧連携・接続	美浜西小	高橋 一男	校長

#### (4) 第51回東陸岐阜大会参加(10月13・14日)

○福井県より40名参加〈提案発表〉

第2分科会	鯖・豊小	窪田 政一	校長
第5分科会	木部小	坪田 義美	校長
第7分科会	越廼小	松本 行生	校長

#### (5) 第68回全連小高知大会参加(10月27・28日)

○福井県より28名参加 提案発表はなし

#### (6) 第3回教育研究委員会

期日：2月8日(水) 会場：プラザ萬象

○今年度の活動報告と次年度の計画等について

(文責：福井市日之出小学校長 田中 政広)

## 編集広報委員会

### 1 活動の基本方針

県小学校長会および各専門委員会の活動について報告・掲載し、全会員に知らせるとともに、平成28年度の県小学校長会の主な歩みを記録する。また、各界の先輩諸氏の提言などを受けて、校長としての指導力の向上や今日的課題の把握に資するとともに、会員相互の意見交換の場を提供する情報連絡誌としての役も果たすよう努める。

### 2 活動内容

#### (1) 「会報」の編集・発行(A4版、年2回発刊)

##### ①第103号の主な内容

- ・巻頭言、校長会に望む、先輩校長の言葉  
新任校長の抱負、県小学校長会の活動方針・内容

##### ②第104号の主な内容

- ・巻頭言、時流潮流、退職校長の言葉  
今朝の校長講話、各専門委員会の活動(4委員)

##### ③委員会活動

- 第1回編集広報委員会(4/12 県教育センター)  
・正副委員長選出・活動方針確認、年間計画
- 第1回編集企画会議(8/19 県教育センター)  
・正副委員長による第103号の最終校正
- 第2回編集広報委員会(8/30 県教育センター)  
・第103号の発刊・発送作業、振り返り
- 第2回編集企画会議(2/14 県教育センター)  
・正副委員長による第104号の最終校正
- 第3回編集広報委員会(2/28 県教育センター)  
・第104号の発刊・発送作業、振り返り

#### (2) 全連小広報担当者連絡協議会(7/1、東京)

- ・「小学校時報」、「教育研究シリーズ」、「特色ある研究校便覧」などの活動計画・情報交換、講演

#### (3) 全連小編集「小学校時報」等の原稿依頼、原稿執筆

##### ○「小学校時報」掲載

- ・6月号 遠敷小 窪田 光宏 校長
- ・8月号 成器南小 竹内 和徳 校長
- ・9月号 惜陰小 林 哲治 校長
- ・10月号 王子保小 佐竹 了 校長
- ・12月号 中藤小 小島 敏弘 校長
- ・3月号 織田小 山岸 美鈴 校長

##### ○全連小ホームページ「特色ある学校」更新

武生東小、三室小、内外海小、気山小、長橋小、成器西小、惜陰小、熊川小

##### ○『全国特色ある研究校便覧平成28・29年度版』掲載

志比小・有終西小・惜陰小・宮川小

##### ○「小学校時報」編集計画に関するアンケート(10月)

#### (4) 依頼原稿の調整(随時)

#### (5) その他必要な広報活動

(文責：福井市羽生小学校長 松枝 恵子)

## 編集後記

今年度2回目の発行を迎えることができました。原稿をお寄せいただきました、敦賀市立博物館長外岡慎一郎様をはじめ、多くの会員の方々に厚くお礼申し上げます。この『会報』には、社会や地域との関わりへの示唆や、校長としての思いや取組が詰まっています。今後も、校長としての役割を果たすための一助になっていくことを願っています。